

2018年8月期業績 2019年8月期業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2018年8月期の業績、および
2019年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 2018年8月期 決算概要	P3	～	P21
II. 2019年8月期 業績予想	P22	～	P26
III. 参考資料	P27	～	P29

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - ジーユー事業： 国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2018年8月期 実績

**過去最高の業績を達成
海外UQ、国内UQが好調で、営業利益は前期比33.9%増**

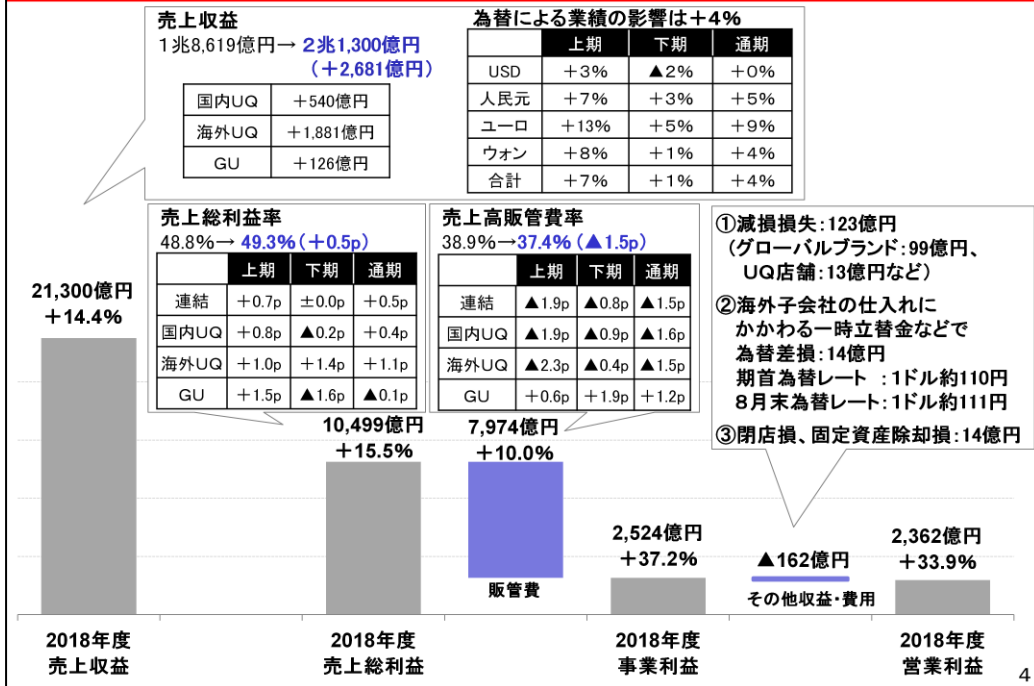
単位：億円

	2017年8月期 通期実績	2018年8月期						直近予想 (7/12)
		上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比	
売上収益 (売上比)	18,619 100.0%	11,867 100.0%	+16.6%	9,432 100.0%	+11.7%	21,300 100.0%	+14.4%	21,100 100.0%
売上総利益 (売上比)	9,092 48.8%	5,856 49.3%	+18.5% +0.7p	4,642 49.2%	+11.9% ±0.0p	10,499 49.3%	+15.5% +0.5p	— —
販管費 (売上比)	7,252 38.9%	4,036 34.0%	+10.4% ▲1.9p	3,938 41.8%	+9.5% ▲0.8p	7,974 37.4%	+10.0% ▲1.5p	— —
事業利益 (売上比)	1,840 9.9%	1,819 15.3%	+41.4% +2.6p	704 7.5%	+27.4% +0.9p	2,524 11.9%	+37.2% +2.0p	2,450 11.6%
その他収益・費用 (売上比)	▲76 —	▲115 —	— —	▲47 —	— —	▲162 —	— —	▲200 —
営業利益 (売上比)	1,764 9.5%	1,704 14.4%	+30.5% +1.6p	657 7.0%	+43.6% +1.6p	2,362 11.1%	+33.9% +1.6p	2,250 10.7%
金融収益・費用 (売上比)	169 0.9%	▲52 —	— —	117 1.2%	— —	64 0.3%	▲61.9% ▲0.6p	▲80 —
税引前利益 (売上比)	1,933 10.4%	1,651 13.9%	+11.9% ▲0.6p	774 8.2%	+69.2% +2.8p	2,426 11.4%	+25.5% +1.0p	2,170 10.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,192 6.4%	1,041 8.8%	+7.1% ▲0.8p	506 5.4%	+129.8% +2.8p	1,548 7.3%	+29.8% +0.9p	1,300 6.2%

2018年8月期の連結業績は、売上収益が2兆1,300億円、前期比14.4%増、事業そのものの収益を示す事業利益が2,524億円、同37.2%増、営業利益が2,362億円、同33.9%増、親会社の所有者に帰属する当期利益が1,548億円、同29.8%増と過去最高の業績を達成することができました。

特に、海外ユニクロ事業の大幅な増益が貢献いたしました。また、国内ユニクロ事業が期を通して好調な業績となったことにより、第3四半期決算で発表した直近予想を上回る大幅な増益となりました。

【連結】2018年8月期 営業利益



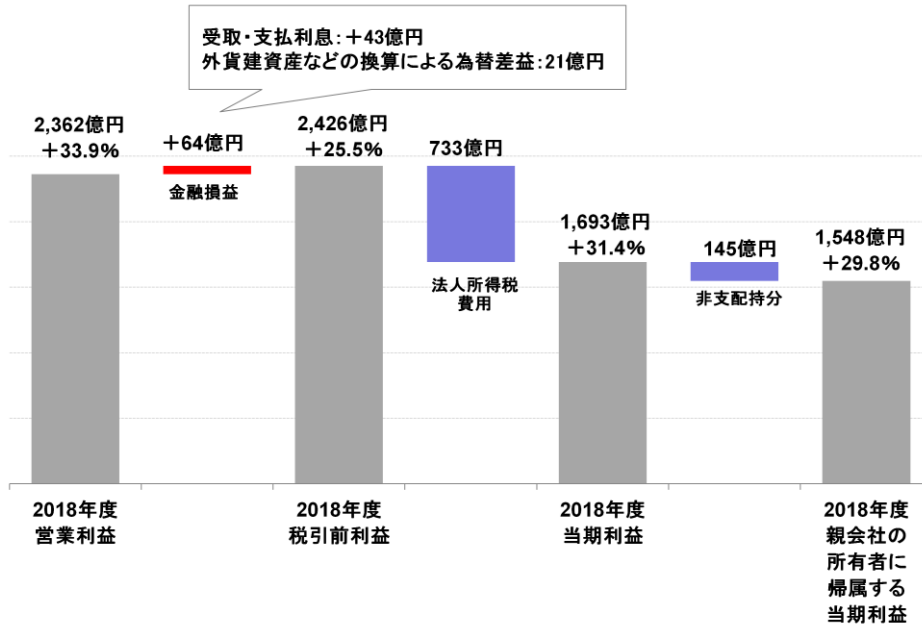
まず、連結の損益計算書ですが、売上収益は前期比2,681億円の増収となりました。全セグメントで増収で、特に海外ユニクロ事業が1,881億円の大幅な増収となっております。

売上総利益率は、海外ユニクロ事業と国内ユニクロ事業で改善したことで、同0.5ポイントの改善となっております。
売上高販管費率も、同1.5ポイント改善いたしました。

これにより、事業利益は2,524億円と、同37.2%増となりました。

その他収益・費用は、グローバルブランド事業やユニクロ店舗の減損損失などを計上したことから、162億円のマイナスとなっております。

これらの結果、営業利益は2,362億円、同33.9%増の増益となりました。



次に、金融損益ですが、ネットで64億円のプラスとなりました。
これは、受取利息および支払利息をネットでプラス43億円、外貨建資産などの換算による為替差益を21億円計上したことによりです。

この結果、税引前利益は2,426億円と同25.5%増、
親会社の所有者に帰属する当期利益は1,548億円、同29.8%増となりました。

2018年8月期 セグメント別 実績(1)

単位: 億円

		2017年8月期 通期実績	2018年8月期					
			上期実績		下期実績		通期実績	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比	
国内ユニクロ事業	売上収益	8,107	4,936	+8.5%	3,711	+4.4%	8,647	+6.7%
	事業利益	967	888	+27.8%	312	+14.7%	1,201	+24.1%
	(売上比)	11.9%	18.0%	+2.7p	8.4%	+0.7p	13.9%	+2.0p
	その他収益・費用	▲ 8	▲ 1	-	▲ 9	-	▲ 10	-
	営業利益	959	887	+29.0%	303	+11.7%	1,190	+24.1%
	(売上比)	11.8%	18.0%	+2.9p	8.2%	+0.6p	13.8%	+2.0p
海外ユニクロ事業	売上収益	7,081	5,074	+29.2%	3,888	+23.3%	8,963	+26.6%
	事業利益	762	808	+62.3%	397	+50.5%	1,206	+58.2%
	(売上比)	10.8%	15.9%	+3.2p	10.2%	+1.8p	13.5%	+2.7p
	その他収益・費用	▲ 31	▲ 1	-	▲ 16	-	▲ 17	-
	営業利益	731	807	+65.6%	381	+56.5%	1,188	+62.6%
	(売上比)	10.3%	15.9%	+3.5p	9.8%	+2.1p	13.3%	+3.0p
ジーユー事業	売上収益	1,991	1,058	+8.3%	1,059	+4.6%	2,118	+6.4%
	事業利益	137	90	+22.0%	29	▲53.9%	119	▲13.0%
	(売上比)	6.9%	8.5%	+0.9p	2.8%	▲3.5p	5.6%	▲1.3p
	その他収益・費用	▲ 2	1	-	▲ 2	-	▲ 1	-
	営業利益	135	91	+23.3%	26	▲57.2%	117	▲13.1%
	(売上比)	6.8%	8.6%	+1.0p	2.5%	▲3.5p	5.6%	▲1.2p
グローバル ブランド事業	売上収益	1,410	784	+11.4%	760	+7.7%	1,544	+9.5%
	事業利益	41	33	+11.4%	29	+143.0%	62	+49.2%
	(売上比)	3.0%	4.2%	▲0.1p	3.9%	+2.2p	4.1%	+1.1p
	その他収益・費用	▲ 36	▲89	-	▲ 13	-	▲103	-
	営業利益	5	▲56	-	15	-	▲41	-
	(売上比)	0.4%	-	-	2.0%	-	-	-

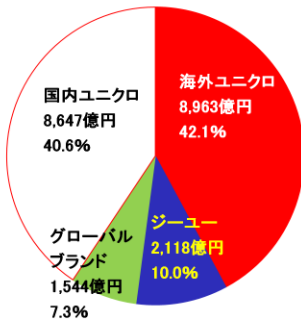
注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6

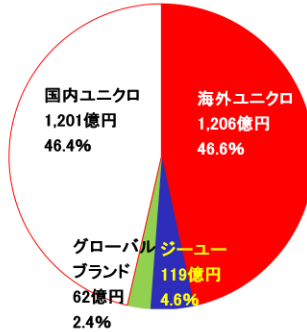
セグメント別の業績は、6ページのスライドの通りです。

**海外UQ事業の売上収益、事業利益が国内UQを上回る
営業利益も、国内UQと同水準にまで拡大**

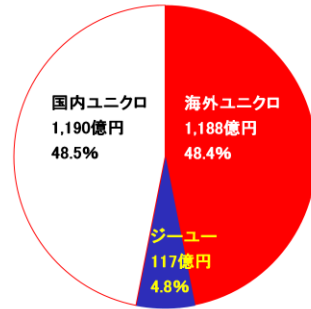
売上収益



事業利益



営業利益



注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

海外ユニクロ事業の売上収益は8,963億円と、国内ユニクロ事業を超えることができました。
また、海外ユニクロの事業利益は1,206億円と、国内ユニクロを若干上回りました。
営業利益については、国内ユニクロに2億円及びみせんでしたが、ほぼ同水準にまで拡大しております。

各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

通期は、直近計画を上回る増収増益 営業利益は前期比24.1%増

- ・既存店売上高が、計画を上回り、前期比+6.2%と好調
- ・粗利益率が計画を若干上回り、同0.4ポイント改善
- ・経費削減の効果が大きく、売上高販管費率は同1.6ポイント改善
- ・下期は夏物販売の値引きを強めたものの、計画を上回る2桁増益を達成

単位:億円

	2017年8月期 通期実績	2018年8月期					
		上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比
売上収益 (売上比)	8,107 100.0%	4,936 100.0%	+8.5%	3,711 100.0%	+4.4%	8,647 100.0%	+6.7%
売上総利益 (売上比)	3,890 48.0%	2,415 48.9%	+10.4% +0.8p	1,770 47.7%	+3.9% ▲0.2p	4,185 48.4%	+7.6% +0.4p
販管費 (売上比)	2,923 36.1%	1,526 30.9%	+2.3% ▲1.9p	1,457 39.3%	+1.9% ▲0.8p	2,984 34.5%	+2.1% ▲1.6p
事業利益 (売上比)	967 11.9%	888 18.0%	+27.8% +2.7p	312 8.4%	+14.7% +0.7p	1,201 13.9%	+24.1% +2.0p
その他収益・費用 (売上比)	▲ 8 -	▲ 1 -	- -	▲ 9 -	- -	▲ 10 -	- -
営業利益 (売上比)	959 11.8%	887 18.0%	+29.0% +2.9p	303 8.2%	+11.7% +0.6p	1,190 13.8%	+24.1% +2.0p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

8

まず、国内ユニクロ事業の通期の業績ですが、
売上収益は8,647億円、前期比6.7%増、
営業利益は1,190億円、同24.1%増と、第3四半期に発表した直近計画を上回る増収増益を達成いたしました。

第4四半期は、値引きの強化による営業利益の悪化を予想しておりましたが、8月に猛暑となったことから、売上と粗利益率が計画を上ブレした結果、下期の営業利益は計画を上回る2桁増益となりました。

【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

既存店売上高 通期+6.2%(上期+8.4%、下期+3.3%)

- ・上期: 例年以上の寒い冬となったことにより、ヒートテックやダウンなどの防寒衣料が好調
また、好調な売上に応じて、タイムリーに増産対応をできたことで、
既存店売上高は前年同期比+8.4%と、非常に高い伸び率を達成
- ・下期: 3月、4月の既存店売上高は、気温が高く推移したことにより、エアリズム、UT、
ドライ系のTシャツ群が好調で、2桁増収。5月以降は、天候不順の影響により、売上が
伸び悩んだが、8月は猛暑となり、夏物販売が好調
- ・客数(+1.7%): 上期に販売が好調
- ・客単価(+4.4%): 比較的単価の高いアウター、ボトムスの販売が好調
- ・Eコマースの売上は630億円、+29.4%、売上構成比は6.0%から7.3%に上昇

直営既存店 前年比	2018年8月期								
	上期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	下期	通期
売上高	+8.4%	+13.0%	+10.0%	▲2.7%	▲4.0%	▲0.3%	+8.8%	+3.3%	+6.2%
客数	+4.2%	+7.7%	+4.7%	▲6.9%	▲7.5%	▲3.3%	+3.7%	▲1.2%	+1.7%
客単価	+4.0%	+4.9%	+5.1%	+4.5%	+3.8%	+3.1%	+4.9%	+4.5%	+4.4%

国内ユニクロ事業の売上ですが、既存店売上高は、期を通して好調で、前期比6.2%増となりました。

また、Eコマースの通期の売上は630億円、同29.4%増と順調に拡大し、売上構成比は6.0%から7.3%へと高まっております。

【国内ユニクロ事業】売上総利益率

**通期の売上総利益率は48.4%、前期比0.4ポイント改善
下期は、直近計画を若干上回る水準**

- ・社内の為替レートが円安傾向にあったため、原価率の上昇が続いているが、上期は、冬物商品の販売が好調で、在庫処分による値引きロスが減少、原価率の上昇分を吸収し、粗利益率は前年同期比0.8ポイント改善
- ・下期の粗利益率は、同0.2ポイント低下。原価率の上昇が続いていることに加え、4Qに値引き販売を強化した影響。ただし、8月の販売が好調だったことで、3Qに発表した直近の計画に対しては若干上回る

	2017年8月期	2018年8月期	
			前期比
通 期	48.0%	48.4%	+0.4p
上 期	48.1%	48.9%	+0.8p
下 期	47.9%	47.7%	▲0.2p

10

次に、通期の売上総利益率ですが、48.4%と前期比0.4ポイント改善いたしました。これは直近の計画を若干上回る水準となっております。

社内の為替レートが円安傾向にあったため、原価率の上昇が続いておりますが、上期は、冬物商品の販売が好調で、在庫処分による値引きロスが減少したことにより、原価率の上昇分を吸収し、粗利益率は前年同期比0.8ポイント改善いたしました。

一方、下期の粗利益率は、前年同期比で0.2ポイント低下いたしました。これは、原価率の上昇が続いていることに加え、第4四半期に値引き販売を強化した影響によります。

ただし、8月の販売が好調だったことで、第3四半期に発表した直近の計画に対しては若干上回っております。

【国内ユニクロ事業】販管費

通期の経費比率は 34.5%、前期比1.6ポイント改善 下期も、金額ベースで計画通り削減

- ・人件費：時給や賞与などで従業員の待遇をさらに改善したことによる人件費増があったが、店舗作業の効率化、RFIDの電子タグ導入により、生産性が向上
- ・物流費：店舗関連の物流費が削減。サプライチェーン全体での商品の動きを詳細に把握、在庫の適正なコントロールができた。倉庫オペレーションも改善
Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の拡大に伴い、上昇
- ・広告宣伝費：チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化
- ・減価償却費：前年4Qに資産除去債務の追加引き当てを実施した反動減で、下期▲0.4p
- ・その他経費：租税公課の一部の計上方法を変更した影響、有明倉庫の自動化に伴うリース料増加などにより、下期＋0.6p

	通期 (前期比)	上期 (前年同期比)	下期 (前年同期比)
販管費合計	▲1.6p	▲1.9p	▲0.8p
人 件 費	▲0.3p	▲0.3p	▲0.2p
賃 借 料	▲0.1p	▲0.2p	▲0.1p
物 流 費	▲0.4p	▲0.6p	▲0.1p
広告宣伝費	▲0.6p	▲0.6p	▲0.6p
減価償却費	±0.0p	＋0.3p	▲0.4p
その他経費	±0.0p	▲0.4p	＋0.6p

11

通期の経費比率は34.5%と、前期比1.6ポイント改善しております。
下期も、金額ベースで計画通りの削減ができております。

まず人件費ですが、売上比率は前期比0.3ポイント改善いたしました。時給や賞与などで従業員の待遇をさらに改善したことによる人件費増がありましたが、店舗作業の効率化やRFIDの電子タグ導入により、生産性が向上いたしました。

物流費は、同0.4ポイント低下いたしました。これは、店舗関連の物流費が削減できたことによります。サプライチェーン全体での商品の動きが詳細に把握できるようになり、在庫の適正なコントロールができたこと、倉庫オペレーションの改善が進んだことによるものです。

ただし、Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の拡大に伴い、上昇しております。

広告宣伝費は、同0.6ポイント改善いたしました。これは、チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化によるものです。

【海外ユニクロ事業】2018年8月期 実績(1)

**通期の営業利益は前期比62.6%増
売上収益は国内UQ超え、営業利益が国内UQと同水準に**

- ・すべての地域で営業利益率が改善、収益力が高まる
- ・各地域で、販売計画の精度が向上、値引率が低下し、粗利益率が改善(+1.1ポイント)
- ・経費コントロールにより、経費比率が大幅に改善(▲1.5ポイント)
- ・グレーターチャイナの高成長が継続
- ・東南アジア・オセアニア地区が、海外ユニクロ事業の成長の柱のひとつとして、利益成長を加速
- ・米国は、計画通り、赤字幅が半減

単位:億円

		2017年8月期	2018年8月期					
		通期実績	上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比
海外ユニクロ事業	売上収益	7,081	5,074	+29.2%	3,888	+23.3%	8,963	+26.6%
	事業利益	762	808	+62.3%	397	+50.5%	1,206	+58.2%
	(売上比)	10.8%	15.9%	+3.2p	10.2%	+1.8p	13.5%	+2.7p
	その他収益・費用	▲31	▲1	-	▲16	-	▲17	-
	営業利益	731	807	+65.6%	381	+56.5%	1,188	+62.6%
	(売上比)	10.3%	15.9%	+3.5p	9.8%	+2.1p	13.3%	+3.0p

12

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

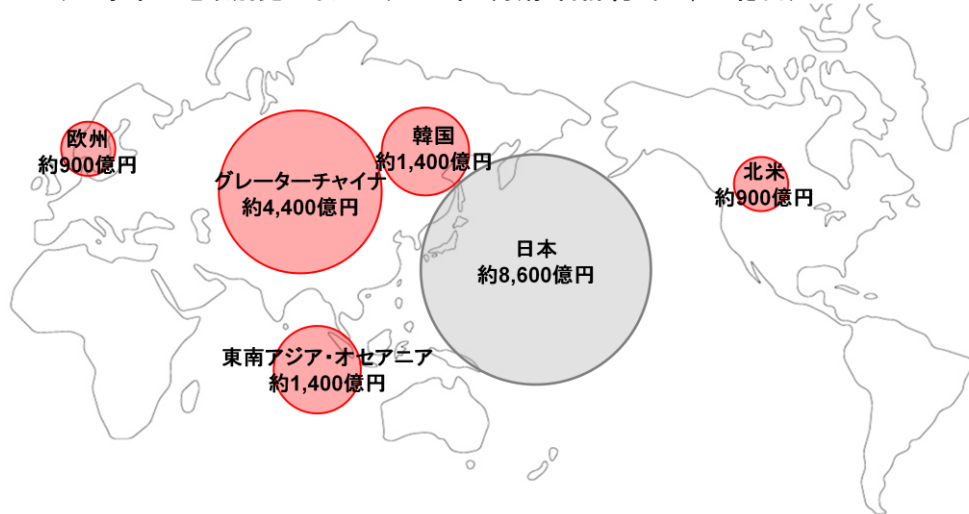
通期の売上収益は8,963億円、前期比26.6%増、営業利益は1,188億円、同62.6%増と、大幅な増収増益を達成いたしました。

海外ユニクロ事業は、すべての地域で営業利益率が改善しており、収益力が高まっております。

これは、各地域で、販売計画の精度が向上したことにより、値引率が低下し、粗利益率が改善したこと、経費コントロールにより、経費比率が大幅に改善したことによります。

グレーターチャイナ、東南アジアの重要性が高まる
2019年秋にはインド、ベトナムにも初出店

ユニクロ事業の地域別売上収益（2018年8月期：合計約1兆7,600億円）



13

13ページのスライドは、ユニクロ事業の地域別の売上収益を示したものです。

グレーターチャイナの売上収益は、日本の約半分の規模にまで成長し、これに加えて、東南アジア・オセアニアの成長が著しく、これらの地域の重要性が高まっております。

東南アジアは、出店を加速するとともに、2019年秋にはベトナムに進出し、ますますの拡大を見込んでおります。

また、のちほど柳井から話がありますように、2019年秋に進出するインドは、グレーターチャイナや東南アジアに匹敵する、ポテンシャルの高い市場であり、今後の成長が期待できます。

グレーターチャイナ:大幅な増収増益**2018年8月期:売上4,398億円+26.9%、営業利益737億円+47.1%**

【中国大陆】上期、下期ともに好調な業績が継続。通期の営業利益は大幅な増益

- ・ユニクロのLifeWearのコンセプトが浸透したことに加え、華東、華北、華南のエリアごとの商品構成が確立できたこと、気候に恵まれたことにより、既存店売上高は増収が継続
下期は、UTや感動パンツの販売が好調で、既存店売上高は2桁増収
- ・Eコマース販売も2桁増収と好調。売上構成比は15%に上昇
- ・収益面では、粗利益率と経費比率が改善
- ・販売計画精度の改善や購買プロジェクトなど、値引率や経費比率コントロールのための取り組みに成果が出始めた

【香港・台湾】粗利益率の改善、経費コントロールにより、増益を達成

- ・香港の既存店売上高は増収。上期は防寒衣料、下期はUTなどのTシャツ群が好調
- ・台湾の既存店売上高は、夏物商品の欠品による機会ロスにより、3Q3ヶ月では若干の減収も、4Qは再び増収。通期でも増収を達成

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

グレーターチャイナの通期の売上収益は4,398億円、前期比26.9%増、営業利益は737億円、同47.1%増と、大幅な増収増益を達成いたしました。営業利益率は16.7%と、同2.3ポイント改善しております。

まず中国大陆ですが、通期の営業利益は大幅な増益で、高成長を維持しております。ユニクロのLifeWearのコンセプトが浸透したこと、華東、華北、華南のエリアごとの商品構成が確立できたこと、気候に恵まれたことにより、期を通して、既存店売上高は増収が継続いたしました。下期は、UTや感動パンツの販売が好調で、既存店売上高は2桁増収となっております。Eコマース販売も2桁増収と好調で、売上構成比は15%に上昇しております。また、販売計画精度の改善や購買プロジェクトなど、値引率や経費比率コントロールのための取り組みに成果が出始めており、収益力も大きく改善いたしました。

香港、台湾の通期の業績は、粗利益率の改善、経費コントロールにより、増益を達成しております。

【海外ユニクロ事業】 エリア別(2)

韓国: 期を通して好調。通期は大幅な増益

- ・既存店売上高は、上期、下期ともに増収。特に上期は寒波の影響により、冬物商品が全般的に好調で2桁増収
- ・マーケティングと売り場が連動した商売ができたことで、値引率が低下、粗利益率は大幅に改善、経費コントロールも継続

東南アジア・オセアニア: 期を通して好調、大幅な増益 2018年8月期: 売上規模は約1,400億円、営業利益率は約15%と改善

【東南アジア】 大幅な増益

- ・UT、ショートパンツなどの夏物商品や、トラベル需要を捉えた冬物商品の販売が好調、既存店売上高の2桁増収が下期も継続
- ・ユニクロのブランド認知度がさらに高まったこと、順調に店舗数を伸ばせたことにより、すべての国で好調な業績
- ・特に、フィリピン、インドネシア、タイでの売上、利益の拡大が著しい

【オーストラリア】 増益、黒字が定着

15

韓国も、期を通して好調な業績が続き、通期の営業利益は大幅な増益を達成いたしました。既存店売上高は、上期、下期ともに増収、値引率も大幅に改善しております。

東南アジア・オセアニア地区は、期を通して好調で、通期の営業利益は大幅な増益を達成いたしました。

売上規模は約1,400億円、営業利益率は約15%と前期比で改善しております。

東南アジアでは、UT、ショートパンツなどの夏物商品や、トラベル需要を捉えた冬物商品の販売が好調で、既存店売上高の2桁増収が下期も継続しております。ユニクロのブランド認知度がさらに高まったこと、順調に店舗数を伸ばせたことにより、すべての国で好調な業績となっております。特に、フィリピン、インドネシア、タイでの売上、利益の拡大が著しいです。

北米:米国の赤字幅が半減、経営改革が着実に進む

【米国】計画通り、赤字幅が半減

- ・西海岸にも本部機能を設置、東西の地域に合わせた商品構成や売り場作りができたことで、既存店売上高は増収
- ・Eコマース販売は順調、売上構成比は20%強へと高まる
特別サイズやセミオーダー商品の販売、お直しサービスの開始、配送可能エリアの拡大により、高い伸び率が継続

【カナダ】3店舗出店し、順調に売上を拡大

欧州:営業利益は倍増

【欧州】増収、営業利益は倍増

- ・特に、ロシア、フランス、英国の増益が寄与
- ・既存店売上高は、欧州全体で増収
- ・欧州全体で合計22店舗を出店
- ・2018年8月:スウェーデンに1号店を出店
オープン当日には1,000人のお客様の行列ができるなど、非常に好調なスタート
- ・2018年9月:オランダに1号店を出店
非常に好調なスタート



16

次に北米ですが、米国は計画通り、赤字幅が半減し、2019年8月期の黒字化に向けて、経営改革が着実に進んでおります。

米国は、西海岸にも本部機能を設置したことにより、東西の地域に合わせた商品構成や売り場作りができたことで、既存店売上高は増収となりました。Eコマース販売も順調に成長しており、売上構成比は20%強へと高まりました。

欧州は増収、営業利益は倍増いたしました。

特に、ロシア、フランス、英国の増益が寄与しております。

既存店売上高は、欧州全体で増収、出店については、合計22店舗を出店いたしました。

【ジーユー事業】2018年8月期 実績

通期の営業利益は、前期比13.1%減
2018年8月期：売上2,118億円+6.4%、営業利益117億円▲13.1%

- ・既存店売上高は減収。商品構成、数値計画に課題
 上期：防寒衣料のアイテム数が少なかったことで、実需をとりこむことができなかった
 下期：キャンペーン商品が計画を下回ったこと、品番数の大幅な増加により、
 売れ筋商品に欠品が発生
- ・粗利益率：前期比▲0.1ポイント。上期の粗利益率は改善も、下期は販売が不振で、
 早期に値引きを強めて在庫処分を進めたことによる
- ・経費比率：同+1.2ポイント
- ・2018年8月末の在庫は、春夏商品の処分を進めたことから、適正な水準を維持

単位：億円

		2017年8月期 通期実績	2018年8月期					
			上期実績		下期実績		通期実績	
			前期実績	前年同期比	前期実績	前年同期比	前期実績	前期比
ジーユー事業	売上収益	1,991	1,058	+8.3%	1,059	+4.6%	2,118	+6.4%
	事業利益	137	90	+22.0%	29	▲53.9%	119	▲13.0%
	(売上比)	6.9%	8.5%	+0.9p	2.8%	▲3.5p	5.6%	▲1.3p
	その他収益・費用	▲2	1	-	▲2	-	▲1	-
	営業利益	135	91	+23.3%	26	▲57.2%	117	▲13.1%
	(売上比)	6.8%	8.6%	+1.0p	2.5%	▲3.5p	5.6%	▲1.2p

17

ジーユー事業の売上収益は2,118億円、前期比6.4%増、
 営業利益は117億円、同13.1%減と、増収減益となりました。

通期の既存店売上高は、減収となりました。これは、商品構成、数値計画に課題があったことによります。具体的には、上期は、防寒衣料のアイテム数が少なかったことで、実需をとりこむことができませんでした。また、下期は、キャンペーン商品が計画を下回ったことに加え、品番数の大幅な増加により、売れ筋商品に欠品が発生いたしました。

事業利益は前期比49.2%増 減損損失の計上により、営業利益は 41億円の赤字

- ・事業利益は62億円、セオリー事業の増益に支えられ、前期比+49.2%
- ・業績の不振が続いていたコントワー・デ・コトニエ事業で77億円、セオリー事業傘下のヘルムートラングブランドで16億円の減損損失を計上

【セオリー事業】営業利益は増益

- ・セオリーブランドは、米国、日本のいずれも安定的な成長
- ・日本で展開しているPLST(プラステ)ブランドも順調に事業規模を拡大

【コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業】赤字が継続

単位:億円

		2017年8月期	2018年8月期					
		通期実績	上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比
グローバル ブランド事業	売上収益	1,410	784	+11.4%	760	+7.7%	1,544	+9.5%
	事業利益	41	33	+11.4%	29	+143.0%	62	+49.2%
	(売上比)	3.0%	4.2%	▲0.1p	3.9%	+2.2p	4.1%	+1.1p
	その他収益・費用	▲36	▲89	-	▲13	-	▲103	-
	営業利益	5	▲56	-	15	-	▲41	-
	(売上比)	0.4%	-	-	2.0%	-	-	-

18

グローバルブランド事業の売上収益は1,544億円、前期比9.5%増、事業そのものの収益を示す事業利益は62億円と、セオリー事業の増益に支えられ、同49.2%増益となっております。

ただし、業績の不振が続いているコントワー・デ・コトニエ事業で77億円、セオリー事業傘下のヘルムートラングブランドで16億円の減損損失を計上したことにより営業利益は41億円の赤字となりました。

【連結】2018年8月期末 B/S

単位：億円

	2017年8月期末	2018年8月期末	増 減
資産合計	13,884	19,534	+5,649
流動資産	10,775	16,180	+5,404
非流動資産	3,108	3,353	+244
負債合計	6,264	10,506	+4,242
資本合計	7,620	9,027	+1,407

19

次に2018年8月期末のバランスシートについて、ご説明いたします。

資産合計は1兆9,534億円と、前期末比5,649億円増加、
負債合計は1兆506億円と、同4,242億円増加、
資本合計は9,027億円と、同1,407億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前期末比)

流動資産の増加+5,404億円(1兆775億円⇒1兆6,180億円)

- ・現金及び現金同等物の増加：+3,158億円(6,838億円⇒9,996億円)

2018年6月に社債を発行したことに伴う現金の増加、営業キャッシュ・フローの増加

- ・棚卸資産の増加：+1,751億円(2,896億円⇒4,647億円)

在庫の計上タイミングの変更に伴う影響が合計923億円(国内UQ:813億円、GU:110億円)

この影響を除くと、実質的には+828億円

(従来は、国内倉庫から店舗へ商品を出庫した時点で、在庫としてBSに計上。2018年8月期末より
商社との契約の一部変更に伴い、海外から国内倉庫に到着した時点でBSに計上)

【国内UQ】+329億円 やや過剰感はあるが、主に、通年で販売しているコア商品の
在庫を多めに発注したことに加え、秋冬商品の発注を早めたことによる

【海外UQ】+446億円 店舗数が前年同期末比+152店舗、冬物商品の早期立ち上げ

【GU】+33億円 春夏商品の販売不振 【グローバルブランド】+20億円

- ・デリバティブ金融資産の増加：+292億円(62億円⇒355億円)

保有する為替予約の平均レートが円高、8月末の為替レートが前期末比で円安、乖離幅が拡大

負債の増加 +4,242億円(6,264億円⇒1兆506億円)

- ・長期金融負債の増加：+2,292億円(2,734億円⇒5,026億円)

2018年6月 総額2,500億円の社債を発行

資産の大半を占める流動資産が前期末比5,404億円増加した主な要因を
ご説明いたします。

まず、現金及び現金同等物は、前期末比3,158億円増加いたしました。
これは、2018年6月に2,500億円の社債を発行したことに伴う現金の増加、
営業キャッシュ・フローの増加によるものです。

次に、棚卸資産は、同1,751億円増加しておりますが、
これは、国内ユニクロ事業、ジーユー事業において、在庫の計上タイミングの
変更に伴う影響が合計923億円含まれているため、この影響額を除くと、
実質的には同828億円の増加となります。

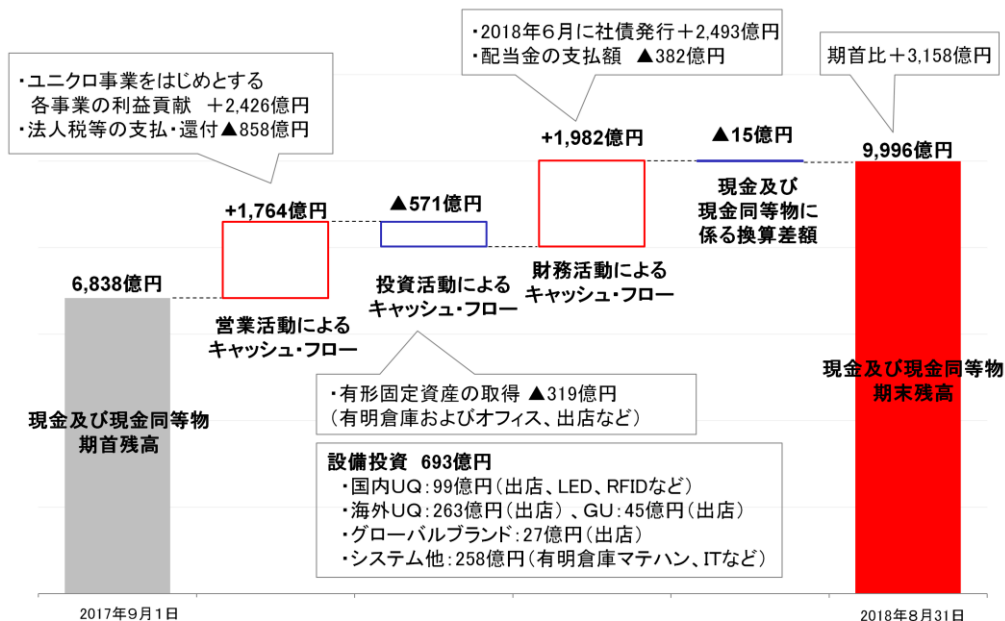
内訳として、まず、国内ユニクロ事業の棚卸資産の実質的な増加は、
同329億円でした。やや過剰感がありますが、これは主に通年で
販売しているコア商品の在庫を多めに発注したことに加え、秋冬商品の発注を
早めたことによります。

海外ユニクロ事業は、同446億円増加いたしました。

これは、店舗数の増加、冬物商品の早期立ち上げによります。

ジーユー事業は、春夏商品の販売不振により、同33億円増加いたしました。

【連結】2018年8月期 キャッシュ・フロー



次に、キャッシュ・フローですが、
 営業活動によるキャッシュ・フローが1,764億円の収入、
 投資活動によるキャッシュ・フローが571億円の支出、
 財務活動によるキャッシュ・フローが1,982億円の収入となった結果、
 2018年8月末における現金及び現金同等物の期末残高は9,996億円となりました。

【連結】2019年8月期予想 通期業績

過去最高の業績を見込む

売上収益	: 2兆3,000億円	前期比 +8.0%
事業利益	: 2,750億円	前期比 +8.9%
営業利益	: 2,700億円	前期比 +14.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	: 1,650億円	前期比 +6.6%

	2018年8月期 通期実績	2019年8月期 通期予想 (10/11)		単位: 億円
			前期比	
売上収益 (売上比)	21,300 100.0%	23,000 100.0%	+8.0%	
事業利益 (売上比)	2,524 11.9%	2,750 12.0%	+8.9% +0.1p	
その他収益・費用	▲162	▲50	-	
営業利益 (売上比)	2,362 11.1%	2,700 11.7%	+14.3% +0.6p	
金融収益・費用	64	0	-	
税引前利益 (売上比)	2,426 11.4%	2,700 11.7%	+11.3% +0.3p	
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,548 7.3%	1,650 7.2%	+6.6% ▲0.1p	

22

次に、2019年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

2019年8月期も、過去最高の業績を見込んでおります。

売上収益は2兆3,000億円、前期比8.0%増の増収、

事業利益は2,750億円、前期比8.9%増を見込んでおります。

その他収益・費用は、約50億円の費用を予想しておりますが、これは主に、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業での店舗閉店に伴う除却損・閉店損などを見込んでいるためです。

この結果、営業利益は2,700億円、前期比14.3%増となる見込みです。

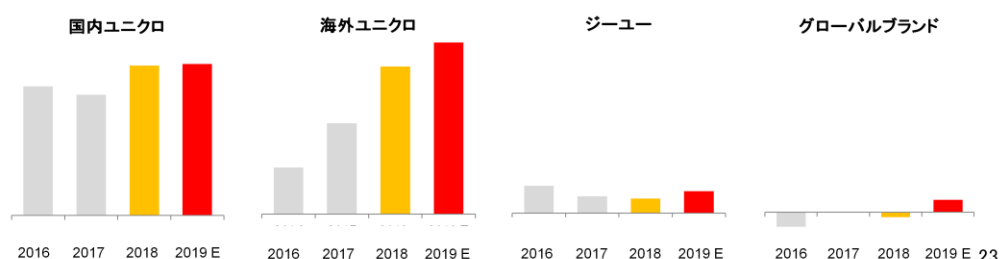
金融収益・費用は、期初の為替レート1ドル111円を前提とし、為替換算差損益は見込んでおりません。

この結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,650億円、前期比6.6%増を見込んでおります。

海外ユニクロ事業: 通期は大幅な増収増益を見込む

- ・営業利益は国内ユニクロを大幅に上回る見込み
- ・通期の粗利益率はほぼ前年並み、経費比率は若干の改善を見込む
- ・グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区が大幅な増収増益を見込む
- ・グレーターチャイナは、年間約100店舗の出店を継続、東南アジア・オセアニア地区は、年間約50店舗の出店と、出店ペースを加速
- ・韓国は、前年のハードルが高いことから、今期は若干の増収増益を見込む
- ・欧州は、大幅な増収増益。2019年春には、デンマークに初出店する計画
- ・米国は、営業利益は黒字化する見込み

セグメント別 営業利益のトレンド(イメージ)



次に、セグメント別の通期の業績予想について、ご説明いたします。

まず、海外ユニクロ事業ですが、通期で大幅な増収増益を見込んでおり、営業利益は国内ユニクロを大幅に上回る見込みです。
通期の粗利益率はほぼ前年並み、経費比率は若干の改善を見込んでおります。

エリア別では、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区が大幅な増収増益と、海外ユニクロの業績をけん引する見込みです。グレーターチャイナは、年間約100店舗の出店を継続、東南アジア・オセアニア地区は、年間約50店舗の出店と、出店ペースを加速する予定です。

韓国は、前年が天候に恵まれたことにより、大幅な増収増益とハードルが高いことから、今期は、若干の増収増益を見込んでおります。
欧州は、大幅な増収増益を見込み、2019年春には、デンマークに初出店する計画です。
また、米国は経営改革により収益が改善し、営業利益は黒字化する見込みです。

国内ユニクロ事業:通期は若干の増収増益を見込む

- ・売上と利益規模が大きな第1四半期は、前年の大幅増益の反動に加え、今期の秋冬の原価率の高止まりによる粗利益率の低下、IT投資増加による経費増が重なるため、第1四半期の営業利益は大きな減益を見込む
- ・上期全体でも、若干の増収、営業利益は減益となる見込み
- ・下期は、原価率が改善するため、大幅増益を予想。通期では増収増益を確保できる見込み
- ・通期の既存店売上高は約2%の増収、うちEコマースは約30%の増収を計画
- ・粗利益率は、通期で若干低下の見込み
上期:低下、下期:改善
- ・経費比率は通期で前年並みを予想
上期:上昇、下期:改善



24

国内ユニクロ事業は、通期で若干の増収増益を見込んでおります。
売上と利益規模が大きな第1四半期は、前年が大幅増益となった反動に加え、今期の秋冬の原価率の高止まりによる粗利益率の低下、IT投資増加による経費増が重なるため、第1四半期の営業利益は大きな減益を見込んでおります。
このため、上期全体でも、若干の増収、営業利益は減益となる見込みです。
下期は、原価率が改善するため、大幅増益を予想しており、通期では増収増益を確保できる見込みです。

通期の既存店売上高は約2%の増収を見込んでおり、このうちEコマースは約30%の増収を計画しています。

ジュー事業：増収、大幅な増益を見込む

- ・商品構成の見直しを行い、トレンド商品は、品番数を大幅に絞ることにより、マストトレンド商品にフォーカスする。また、防寒衣料などの実需商品の割合を増やすことで、売上の拡大をめざす
- ・有明プロジェクトを本格的に進め、サプライチェーン全体を見直し、お客様のニーズをいち早くキャッチ、分析し、商品企画や数量計画に反映できる体制を構築
- ・素材調達や生産プロセスの見直しにより、競争力のある低価格をめざす
- ・収益面では、粗利益率の改善に加え、品番数を絞ることによる効率化、デジタル化を進めることによる人時生産性の改善を図る

グローバルブランド事業：大幅な増益を見込む

- ・セオリー事業、PLST事業は、ともに増収増益
- ・その他の事業は、赤字幅が縮小することを見込む

ジュー事業は、増収、大幅な増益を見込んでおります。

今期は、商品構成の見直しを行い、トレンド商品については、品番数を大幅に絞ることにより、マストトレンド商品にフォーカスしていきます。また、防寒衣料などの実需商品の割合を増やすことで、売上の拡大をめざします。

さらに、有明プロジェクトを本格的に進め、サプライチェーン全体の見直しを行うことで、お客様のニーズをいち早くキャッチ、分析し、商品企画や数量計画に反映できる体制を構築、素材調達や生産プロセスの見直しも進め、競争力のある低価格をめざします。

グローバルブランド事業は、セオリー事業、PLST事業の増益に支えられ、大幅な増益を見込んでおります。

2018年8月期 配当金予想

2018年8月期 年間配当金 440円を予定
2019年8月期 年間配当金 480円を見込む

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2017年8月期	175円	175円	350円
2018年8月期（従来予想）	200円	200円	400円
2018年8月期（修正予想）※1	200円	240円	440円
2019年8月期（10/11予想）※2	240円	240円	480円
前年比	+40円	+0円	+40円

※1 2018年8月期の期末配当金は、2018年11月2日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、配当金について説明させていただきます。

2018年8月期の期末配当金は、好調な業績の結果を踏まえ、200円から240円へと40円の増配を予定しております。この結果、2018年8月期の年間配当金は、1株当たり440円を見込んでおります。

2019年8月期の配当金につきましては、中間配当金240円、期末配当金240円、あわせて年間で480円、前期比40円の増配を見込んでおります。

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

<参考資料> 連結対象会社別出退店 実績と予想

【単位：店舗】	17年8月期	2018年8月期(2017/9~2018/8)実績				2019年8月期(2018/9~2019/8)予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,920	185	37	+148	2,068	211	40	+171	2,239
国内ユニクロ事業※	831	18	22	▲4	827	30	30	0	827
直営店	790	15	21	▲6	784	-	-	-	-
大型店	209	9	3	+6	215	-	-	-	-
標準店等	581	6	18	▲12	569	-	-	-	-
FC	41	3	1	+2	43	-	-	-	-
海外ユニクロ事業	1,089	167	15	+152	1,241	181	10	+171	1,412
中国	555	89	11	+78	633	-	-	-	-
香港	25	3	0	+3	28	100	-	-	-
台湾	65	2	2	0	65	-	-	-	-
韓国	179	8	1	+7	186	7	-	-	-
シンガポール	24	2	0	+2	26	-	-	-	-
マレーシア	41	7	0	+7	48	-	-	-	-
タイ	34	6	0	+6	40	-	-	-	-
フィリピン	40	11	0	+11	51	50	-	-	-
インドネシア	12	6	0	+6	18	-	-	-	-
オーストラリア	12	3	0	+3	15	-	-	-	-
米国	44	5	1	+4	48	10	-	-	-
カナダ	2	3	0	+3	5	-	-	-	-
英国	10	1	0	+1	11	-	-	-	-
フランス	19	6	0	+6	25	-	-	-	-
ロシア	20	11	0	+11	31	-	-	-	-
ドイツ	5	0	0	0	5	14	-	-	-
ベルギー	2	1	0	+1	3	-	-	-	-
スペイン	0	2	0	+2	2	-	-	-	-
スウェーデン	0	1	0	+1	1	-	-	-	-
オランダ	0	0	0	0	0	-	-	-	-
ジーユー事業	372	30	9	+21	393	40	10	+30	423
グローバルブランド事業合計	1,002	42	60	▲18	984	44	13	+31	1,015
セオリー事業※	538	32	33	▲1	537	-	-	-	-
コントワー・デ・コトニエ事業※	333	8	21	▲13	320	-	-	-	-
プリンセス・タム・タム事業※	131	2	6	▲4	127	-	-	-	-
総 合 計	3,294	257	106	+151	3,445	295	63	+232	3,677

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む

<参考資料> 為替レート

連結取込 為替レート(12ヶ月平均)

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.1	120.7	139.7	16.1	9.7
2018年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.3	131.5	148.8	16.9	10.1
2019年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	105.0	130.0	150.0	16.7	9.8

バランスシート適用 為替レート

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 期末為替レート 実績	110.4	131.3	142.7	16.7	9.8
2018年8月期 期末為替レート 実績	111.1	129.5	144.6	16.2	10.0
2019年8月期 期末為替レート 予想	111.1	129.5	144.6	16.2	10.0

<参考資料> 設備投資・減価償却費

設備投資(ファイナンス・リース含む)・減価償却費

単位: 億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2016年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	67	268	99		154	589	367
2017年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	66	243	76	29	181	597	396
2018年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	99	263	45	27	258	693	450
2019年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	39	328	67	31	313	778	530

2017年8月期より設備投資にファイナンス・リースを含めて開示いたします。
2016年8月期の設備投資の実績もファイナンス・リースを含めた数字で掲載しております。